

# 白樹会だより

# 白樹

hakuju



公立大学法人 山梨県立大学 看護学部同窓会「白樹会」会長  
山梨県立高等看護学院  
保健婦学科 16期生

齊藤 けさ子

「礎」「原点に立ち返り、  
未来を見据えて！」

**平** 成29年を迎え白樹会の皆様には、お元気で御活躍のことと存じます。

日頃、白樹会の活動に多大なご理解・ご支援をいただき居りますことに感謝申し上げます。

さて、この度山本会長の後任として白樹会会長を務めさせていただくことになりました。私は、生涯にわたり生きる力を支える健康、この健康教育は子どもの頃から、教育の「環」として行うことが必要ではないかとの思いから看護教育の道を選びました。誰からも信頼される養護教諭、生きる力を支える健康と体力を基本理念とし、時代の要求に応えられる教育実践者をめざして参りました。

時を経て母校を訪ねてみますと、時代に応える大学、広い知識と高度な専門性を備えた看護実践者を育てることを目標に新生されていきました。看護職者の看護実践能力のさらなる向上をめざす看護実践開発研究センター、さらには大

今年度の主な活動を振り返りますと、総会においては、審議事項の全てが承認され、活動の方向付けが出来ました。総会終了後は、夏川草介氏講演会「神様のカルテ」を開催し、一般参加者もあり300名の参加がありました。「今後の生きる指針となった」など、多くの感想をいただきました。聖灯祭では、オーブニングで学生のチューター制活動支援金・聖灯祭支援金の

贈呈を行いました。同窓会としてのブースも開設しました。また、例年行ってきた国家試験への激励は、試験で使用する鉛筆を合格祈念の文字を書いた封筒で卒業生に贈呈し好評を得ました。

平成29年度は、総会後の講演会に「私の介護体験をとおして」萩野日慶子氏「在宅での医療処置の変革」岡崎成美氏をお迎えし、共に学び合う機会を予定しています。多くの皆様のご出席をお待ちして居ります。

今後、原点に立ち返り未来を見据え、時代に応えられる白樹会活動を同窓会員一丸となり展開できますよう、皆様方のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

今後、益々のご活躍をご祈念申し上げます。



公立大学法人 山梨県立大学 看護学部  
学部長 流石 ゆり子

## 同窓会は「看護の礎」

**白** 樹会の皆様には、日頃から看護学部への多大なご支援を賜り心よりお礼申し上げます。

ご存知のように、本学は平成22年4月に法人化され、平成28年度には次の6年間である「第2期中期計画期間」に突入いたしました。本学にはこれまで以上に、公立大学としての役割機能の明確化と、これを踏まえたオリジナリティーのある成果を社会に発信・提示していくことが求められております。

県内・外の保健・医療・福祉分野では、大勢の同窓生の皆様が看護師・保健師・助産師・養護教諭等として活躍されています。本学は、平成26年8月に主要実習フィールドである県立中央病院と「包括連携協定」を結び、連携の具体化に向けて重点項目を掲げ、取り組みを強化・推進して参りました。その一つである「看護研究学術集会（共催）」では、教員と看護師双方の強みを活かした共同研究の成

果発表等、3年間の着実な連携の歩みを実感しているところであります。今後は、中央病院以外の諸施設にも連携の輪を広げていきたいと考えております。また、当センターでは、今年度も「認定看護師教育課程（緩和ケア6期生19名）」「認知症看護3期生29名」の修了生48名を送り出すことができました。修了生が、県内施設を拠点に全国ネットで活動を展開できることは本学にとつても大きなメリットです。今後ともよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、私も学部長としての任期4年を無事務めさせていただきました。私事で恐縮ですが、合せてこの3月で本学を退職となります。

昭和49年4月の山梨県入職以来、43年間という長きにわたる勤務生活を何とか終えることができました。

4月からは村松照美新学部長

長にバトンタッチいたします。同窓会の皆様には、今後とも多大なご支援・協力をよろしくお願い申し上げます。



30年以上も前、これまでのエピソードを振り返る学生時代に、とも多くなり、人々の価値観や生活、医療要求も変化しています。看護専門職として、激動する時代を眺み、先見性をもつて、確実に看護を必要とする人々の要求に応答するには、どのようにすべきかを考えていく時機であると思います。

私は、今年度をもって看護学研究科長の任を終えることになりました。これまで同窓会の皆様には多大なご支援を頂きました。次々と心より感謝申し上げます。次

期の研究科長は佐藤悦子教授になり、同窓会の会員の方々の皆様もご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

人として、看護の専門職としてのありべき姿を常に意識することの重要性

遠藤みどり

山梨県立大学看護学研究科長

### 編集後記

今年度のテーマは「礎」です。今、日本は、スポーツを通じて躍進しております。リオ・デ・ジャネイロのオリンピックは、2020年の東京オリンピックの成果を期待できる内容となっていました。サッカーのFIFAワールドカップにおいても南米の強豪を日本チームが倒し、ヨーロッパチームと互角に戦う姿は、日本の若者のエネルギーを感じることができました。日本社会は、少子高齢社会が加速し、医療への期待が高まり、より個性化複雑化したニーズへの対応が求められています。その中、私たちは、看護職者の同窓会人として、若い世代に生きる力、看護の基盤となる心をつなげたいと、今年度のテーマを「礎」としました。事務局員一同、これからも同窓会活動を頑張っていきたいと思っております。最後に、会誌第21号「白樹」の発行に際しまして、多忙中、寄稿していただきました方々に感謝申し上げます。（前澤）

### 事務局

事務局長 木内千枝  
書記 前澤美代子、森田祐代  
会計 井川由貴、高取充祥  
事務局員 濱田奈央、大船朋美、赤坂みえ子、中嶋君枝、小澤めぐみ、星野麻子、渡辺優

### 連絡先

〒400-0062 山梨県甲府市池田一丁目6番1号  
Tel.055-253-7780 Fax.055-253-7781  
発行所：山梨県立大学看護学部内同窓会事務局

山梨県立大学看護実践開発研究センター  
母校で認定看護師をめざそう！  
(緩和ケア・認知症看護)  
詳しくは：http://rcdnp.yamanashi-ken.ac.jp/

## 平成29年度 通常総会講演会

日時 平成29年5月27日(土)  
12:00~受付 12:30~通常総会  
14:00~講演会  
場所 山梨県立大学 池田キャンパス講堂



中北保健福祉事務所(中北保健所)

健康支援課

水野 沙織

その人らしく生きることを支える

**私** は、山梨県中北保健所の健康支援課で保健師として働いており、今年2年目を迎えます。現在、主な業務としては難病患者や小児慢性特定疾病患児、結核患者などの支援を担当しています。

私が保健師を目指したきっかけは、学生時代に抱いた、病院にいる期間はその人の人生のうちほんの一部であり、その人がその人らしく生活できる場は地域であるという想いからでした。

実際、保健師として様々な患者さんやご家族の想いを聴く中でも、保健師を目指した時の想いは変わらず、支援者として治療だけではなく、最期までその人らしく生きられるような支援が大切だと感じています。

また、最近是在宅医療推進事業などが展開されている中で、地域の現状や課題について分析し、関係機関と地域一体となって在宅療養者を支える支

援体制を強化に取り組み先輩保健師たちの活躍を見て、保健師として地域社会や時代背景を的確に捉え、地域へアプローチしエンパワメントを図っていくことの大切さも感じるようになりました。

まだまだ経験も浅く、知識も技術も不足していますが、これからも周りの方々から多くのことを吸収し、その支えに感謝しながら、先輩保健師たちのように、地域と一体となって活動できる保健師へと成長していきたいと考えています。そして、地域で暮らす県民がその人らしく生きていけるよう日々の保健師活動に取り組みしていきたいと思っています。



甲府市立北中学校 養護教諭

赤坂 みえ子

あたたかいつながり

**私** の養護教諭生活は平成と共に始まりました。救急処置からのヒヤリと始まり、小学校と中学校の両方の勤務経験があります。小学校には小学校の、中学校には中学校の大変さがあり、その時々四苦八苦しながら対応してきました。

新採用の時の不安な気持ちは今でも忘れられません。私が始めて赴任した学校は前任者がいなかったことから、「引き継ぐ」という事ができず、保健室経営計画もない状況からの出発でした。常に同僚に助けを求めたり、同じ地区の大先輩の養護教諭にアドバイスをもらったりしてなんとか三年間、勤務することができたと思っています。

それから、色々な学校現場を経験してききました。救急処置からのヒヤリとハット体験、保健室登校、教育相談、保健指導等、さらに自分の子育てを経験して得たことから現在の自分がいるのではないかと感じています。

改めて自分の養護教諭としての礎とは何かと考えてみると高卒を卒業時の謝恩会で言ったことなのかもしれませんが、今まで関わってきた先輩の先生方へ感謝を返せない分、これからの子どもたちに関わっていききたい、との思いです。初心忘るべからず、そして、養護教諭の先輩方が築いてきた上今の学校保健があると言うことも忘れずに、残りの養護教諭人生を進んでいきたいと思っています。

# テーマ いしづえ 礎



**私** は現在、山梨県立中央病院総合周産期母子医療センターで助産師として勤務し、2年目を迎えます。必死で突き進んだ1年目が終わり、助産師2年目を迎えた今、感じることは、毎日の積み重ねが私の看護の土台を作っているということです。

私には、患者さんに言われた忘れられない言葉があります。「もつと産科病棟の助産師さんと話したかった。」以前、担当した緊急帝王切開での経験です。胎児に異常が指摘され、不安な妊娠期間を過ごした後、緊急帝王切開を迎えた患者さんでした。多くの不安を抱えていることを知ったうえで、見受けを担当しましたが実際の私は生まれてくる子のリスクと予測される状況、対応でいっぱいになっていました。私が日々、緊迫した状況の中でも患者さんの心に寄り添うことをもつと大切にできていたなら行動が

変わっていないのか、その一言は、自分の関わりを振り返る良い機会となりました。

日々の看護の中でできていないことを緊迫した状況で行うのは難しいです。

反対に、日々の関わりの中で大切にできたことはどんなに緊迫した状況であつても同じように大切にできるのではないのでしょうか。毎日の積み重ねが自分の看護を作っていると痛感した経験でした。

まだまだ、未熟で土台作りをしている段階です。多くの知識、技術、経験を積み重ねることのできる、広い土台をつくり、どんなに緊迫した状況でも穏やかに凍らした助産師になれるよう、日々努力していきたいと思っています。



山梨県立中央病院総合周産期母子医療センター助産師

小野 衣美

「私の礎」  
看護の土台をつくっているもの



山梨県立中央病院 がん相談支援センター

山岸 良治

## 「黒衣」

**「黒衣」**読みは「くろい」。黒衣の誤用が慣用化したものが黒子です。「黒衣」の仕事は多岐にわたる舞台上の役者の着替えを手伝ったり小道具を渡したりと役者の部隊の演技の妨げにならないよう、見えないように仕事をします。

私の働く舞台は、がん相談支援センター。役者は患者、家族、医師、看護師、その他多くの方々がいます。私はその舞台の上で黒衣として働いています。

患者さんは、がんが診断され、治療の選択を迫られ、治療後も再発や病状悪化の不安、治療が来なくなった時と様々な舞台で、自分らしく歩み出せないことがあります。その一歩を踏み出すために、治療、療養に携わる方々と連携をとり、自分らしい意思決定を行えることが大切です。

がん相談は、その人らしく療養生活を送るよう相談を受け、行動がとれるように支援をする黒衣的な役割を担っています。現在、がん相談が主な職務であり、看護師としてケアをすることは少ないです。ただ、看護の道を志した礎には「黒衣」としてサポートしたい思いがありましたので、今できることを行っていきたいと思っています。これからは、多くの方々と連携しサポートできる黒衣の看護師として働いていけたらと思っています。



星野 麻子

贅沢は心で楽しむ

**古** き良き時代を知らない私たち世代も、「昔はよかったな」なんて思う瞬間もあるのです。いつでも何でも手に入る時代、それでも「昔はよかった」と。24時間365日欲しいものは手に入り、便利で贅沢な世の中になっている。空飛ぶ車は無いけれど、昔思っていた「未来」に近い未来は物々しいです。

物がない時代は物を求め、何でも手に入る時代になり、物欲よりも心の豊かさを求める時代になっていて、物々しい時代とは別。物が満たされるのではなく、人とのつながりややりがいを求める気持ちは、より強く決って消えることのない欲求になっているように思いませんか？

そんな今、看護師として私の心を動かしているものっていったい何だろう。忙しい、疲れる、嫌なことも沢山あります。頑張った褒美なんて言っても高価なものを買ったりしたこともあり、心が満たされませんでした。どちらか

かという空虚感の方が残っていたような気がします。

それよりも、同僚や患者さんから癒された経験が今も変わらず心を満たしてくれています。だから、嫌なことも含めて、今までたくさん関わってくれた人達の想いに感謝なのです。たくさんの人から頂いた癒しや勇気を、今度は自分が人と分かち合えたら幸せです。ね。そんな豊かな心で仕事が出来たらいいなと思つて仕事や周りの人達と向き合っている毎日です。

特にこの仕事はたくさん人の心や想いに触れる機会が多いからこそ、苦しいこと、辛いことも多く、時には「自分本位であつた」と反省する日もありながら、それでもこの仕事を続けているのは、人との出会いがあり、心と心との繋がりがあってほしいからでしょう。

そんな心の贅沢を楽しめる人になれたら、きっと私の看護師人生は豊かになるはずだと思っています。

**事務局からの連絡**

氏名・住所変更等の連絡は、白樹会ホームページ (<http://www.hakujukai.net/>) から行うことができます。

●この通知がご実家に届いた場合は、ご本人にお渡しくださいますようお願い致します。

山梨県立大学 看護学部長  
退任記念最終講義 流石 ゆり子先生  
テーマ **老年看護学との出会い**  
～“高齢者”に魅せられて～  
日時:2017年3月1日(水) 15時～16時30分  
場所:山梨県立大学池田キャンパス 講堂  
お問い合わせ:山梨県立大学116研究室(小山)  
fujimaki@yamanashi-ken.ac.jp

●3月1日、5月27日の両日は駐車場が限られておりますので、公共交通機関をご利用になるか、お車に乗り合わせてご来場ください。

●通常総会等の運営には、卒後3年目の同窓生が関わります。

●その他お問い合わせは、055-253-7780(白樹会事務局)までお願いします。